

久留米工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	リベラルアーツ特論2（グラフ理論）
-------------	------	-----------------	------	-------------------

科目基礎情報

科目番号	4SR34	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	制御情報工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：指定しない。教材：プリントを配布する。参考図書：石村園子著 やさしく学べる離散数学（共立出版）		
担当教員	中村 駿介		

到達目標

- グラフ理論の基礎を知る。
- グラフ理論の応用例を提示することができる。
- グラフ理論の応用例を提案することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 グラフ理論の基礎知識	グラフ理論の用語・定理がわかり、応用することができる。	グラフ理論の用語・定理がわかる。	グラフ理論の用語・定理がわからない。
評価項目2 応用例の提示	グラフ理論の応用例を揭示することができ、その詳細をわかりやすく説明することができる。	グラフ理論の応用例を揭示することができ。	グラフ理論の応用例を揭示することができない。
評価項目3 応用例の提案	グラフ理論の応用例を提案することができ、その詳細をわかりやすく説明することができる。	グラフ理論の応用例を提案することができ。	グラフ理論の応用例を提案することができない。

学科の到達目標項目との関係

4

教育方法等

概要	本講義では、グラフ理論を扱う。グラフ理論は、様々な工学分野に応用されている。リベラルアーツ特論1では、グラフ理論の基礎知識と自身の専門とのつながりを考えた。そこで、リベラルアーツ特論2では、他学科を交えて、グラフ理論の応用を考える。
授業の進め方・方法	他学科を交えて、興味のあるテーマごとにグループ分けをする。 テーマごとに話し合いを行い、最終回にグループ発表をする。 履修者の意見を聞いて、テーマを決定する。
注意点	1. この科目は通年科目である。 2. 欠席・公欠等の場合は、グループメンバーと教員にその旨を伝え、次回までにやるべきことの確認を行うこと。 3. 評価方法は下の「評価割合」の通りとし、60点以上を合格とする。 4. 次回までにやるべきことをグループメンバーで合わせておくこと。 5. 遅刻・早退・欠席の回数に注意すること。

授業の属性・履修上の区分

<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
--	--	---------------------------------	---

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	1週	テーマごとの発展的活動 1	各グループで話し合いを行う。
	2週	テーマごとの発展的活動 2	各グループで話し合いを行う。
	3週	テーマごとの発展的活動 3	各グループで話し合いを行う。
	4週	テーマごとの発展的活動 4	各グループで話し合いを行う。
	5週	テーマごとの発展的活動 5	各グループで話し合いを行う。
	6週	テーマごとの発展的活動 6	各グループで話し合いを行う。
	7週	テーマごとの発展的活動 7	各グループで話し合いを行う。
	8週	進捗確認	後期後半に研究開発を終わらせるためには、どのようなスケジュールを組めばよいか確認する。
4thQ	9週	テーマごとの発展的活動 8	各グループで話し合いを行う。
	10週	テーマごとの発展的活動 9	発表要旨を作成する。
	11週	テーマごとの発展的活動 10	発表要旨を作成する。
	12週	テーマごとの発展的活動 11	発表準備をする。
	13週	テーマごとの発展的活動 12	発表準備をする。
	14週	テーマごとの発展的活動 13	発表準備をする。
	15週	発表	研究・開発の結果を発表をする。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	発表要旨	ポスターまたはスライド	発表	合計
総合評価割合	20	50	30	100
専門的能力	10	25	15	50
分野横断的能力	10	25	15	50